

4年 総合的な学習の時間（My舞タイム）活動案

指導者 嵯峨 千鶴子（T1） 佐藤 睦子（T2）
土田 亮輔（T3） 佐々木 智子（T4）
池田 裕貴（T5）

1. 単元名 子吉川について調べよう ～「ひみつがいっぱい！子吉川」～
2. 単元の目標
 - 子吉川について取材したり調べたりする中で、子吉川の自然や歴史や環境問題、郷土のためにつくす人々について関心をもつことができる。
 - 子吉川をテーマに、自ら課題を見付け、計画を立て、調べたり体験したりしたことを、工夫した表現方法でまとめることができる。
3. 活動にあたって
 - (1) 児童について
子どもたちは、3年生で「まちのふしぎ探検隊」「まちのすてき発見隊～すごいぞ！ぼくらのまちのお祭り～」 「本荘の昔にレッツ・ゴー」「いっしょに音楽会（ゆり養護学校との交流）」の4つの総合的な学習単元を経験している。教科との関連を図りながら、身近な生活・地域の中から課題を見付け、探検・見学・インタビューなど体験的な方法を中心に、初歩的な課題解決のしかたを学びながら追究活動を行った。また、2年生にVTRで伝えたり、調べたことを相手意識をもって表現することができた。総合的な学習についての意欲は総じて高く、進んで取り組もうとする子どもが多く見られた。しかし、課題を絞りきれない子どもや、資料の選択や活用がうまくいかない子どもも見られる。
そこで、昨年の4年生の学習成果物や地域の公共機関、子吉川にかかわる民間団体や地域人材なども資料として活用するとともに、教科の力との関連を明確にして、子どもたち一人一人が自力で追究活動を行っていけるようにしたい。
 - (2) 単元について
本単元では、子吉川について興味をもったことから課題を決定し、昨年の学習経験をもとに解決の見通しをもつ。そして、調査や体験をもとに課題を追究し、解決を図る。そうした活動の中で、地域の環境問題や人々の思いに気づき、自然を大切にしようとする気持ちを育てたい。
また、国語科の説明的文章を読みとる力、事例と意見の区別、改まった手紙の書き方、フィールドワークの手法などを活用したり、社会科の「健康なくらしとまちづくり」の学習、見学、インタビュー、新聞によるまとめなど他教科で身に付けた力との関連を図りながら、課題解決能力を育てていきたい。
さらに、まとめでも教科の力を生かし、図表や写真を用いたり、短い文章で要点を押さえて書き表したりして分かりやすい表現ができるようにしたい。そして、友達と伝え合う場を設定することで、はきはきと伝えたり自分の調査と比較しながら聞いたりすることができるようにしたいと考えていえる。
 - (3) 指導について
はじめに、学年全体のオリエンテーションを行い、子吉川について知っていることや興味をもっていることを話し合い、VTRや写真、実際の水を汲んだもの、川原の石などを見ながら、課題意識をもつことができるようにしたい。一人一人の課題が深まりや広がり期待できるものになるように個別に話し合う時間を十分に時間を保障していきたい。
課題追究の場面では、座席表や評価カードを使って、個々の進行状況を把握し、情報提供、調査の場の設定など適切に支援していくことができるようにしたい。また、シートやヒントカード、掲示物などを工夫することで、教科で身につけた力を十分に発揮し、主体的な取り組みができるようになると思う。
調査の過程や伝え合う場面では、「ツバメがすむ町」で学習した説明文の表現方法、事実と意見の区別、「新聞記者になろう」の整理された記事の書き方など国語科の学習と関連を図りながら自分の意図が確実に相手に伝わるようにしていきたい。中間発表会では、聞き手を意識してはっきりと話したり、友達の発表を受けてアドバイスし合ったりして目的意識を持って話したり聞いたりすることができるようにしたい。
また、TV授業を活用し、教育センターの先生からアドバイスをいただいたり資料を見せていただいたりして、追究活動にひろがりをもたせ、より意欲的に取り組むことができるようにしたい。

4. 全体計画 総時間数 時間（本時 15・16／33）

次	主 な 学 習 活 動	継	上位の子への手立て	評 価 規 準 B	下位の子への手立て	教科等との関連
一次	○オリエンテーション（2） ○視点を明確にして自分の課題を作る。（2） ○テーマごとのグループで調べる内容、方法、準備、順序を考え、計画を立てる。（2）	全 ↓ 個 全 個 ・ グ	・追究に深まりのある課題となるように多様な視点からの資料を示す。	・興味をもったことから課題を設定できる。 ・見通しをもって計画を立てることができる。	・前年度の実践や実物資料を提示して、個別に話し合いながら個人の課題を設定する。 ・調査の方法をいくつか示し、自分の課題に合った方法を選択させる。	・事例と意見の区別（国語） ・テーマ設定理由の書き方（国語） ・インターネットの検索 ・図書利用（国語）
二次	○自分の課題を解決するために、必要な情報を選択し、追究する。 （情報収集・インタビュー ・現地調査 ・図書資料 ・インターネット ・TV会議 整理 計画の修正（12） 本時 15・16／33（9・10/12）	個 ・ グ	・一つの方法だけでなく、様々な方法で調べ、検証していくように促す。 ・調査したことから自分の意見をもてるようにシートを工夫する。 ・調査したことから浮かび上がった疑問点から、さらに追究できるような環境を整える。	・図書資料から必要な情報を見つけたり書き出したりすることができる。 ・インターネットから必要な情報を検索することができる。 ・聞きたいことを的確にインタビューすることができる。	・必要な情報を提示し、すぐに調べることができるようにする。 ・インタビューメモを使い、話し方の練習ができるようにする。	・インタビュー（国語） ・手紙（国語） ・観察（理科） ・フィールドワーク（国語） ・資料の活用・整理（社会）
22	○調べたことを分かりやすく工夫してまとめる。（6）	個 ・ グ	・実物提示、プレゼンなど新しい表現方法を示し、挑戦してみるように促す。	・用紙や図表、写真を用意し、要点を押さえて話したり見やすく書き表したりできる。	・分かりやすいまとめの方法を例示し、教科で学習したまとめ方を手引きとして示す。	・新聞記者になろう（国語）
	○同じようなテーマの友達と調べたことを紹介し、次の見通しをもつ。〈コース内中間発表会〉（2）	個 ・ グ	・調査がさらに深まったり広がったりするような視点を示す。	・調べたことを紹介し、自分や友達の調査の不足や表現の分かりにくいところに気付くことができる。	・比べながら聞くことができるようにシートを使って視点を示す。	・伝えたいことを選んで筋道を立てて話す ・中心に気をつけて聞く（国語）
	○中間発表会の成果をもとに再調査をしたりまとめの手直しをしたりする。（2）	個 ・ グ	・より分かりやすいまとめになるように、提示方法の工夫を紹介する。	・自分のまとめを見直し、分かりやすく伝える方法を工夫することができる。	・不足している情報や分かりにくい表現を一緒に見直し、自信をもって発表できるようにする。	・安全新聞を作ろう（社会） ・安全会議をひらこう（社会）
三次	○まとめたものを聞き手によく伝わるように学年全体で発表し合う。（3） ○発表会をもとに子吉川について考え、相手を見つけて発信する。（2）	個 ・ 全	・優れている点を認めながら聞き、聞き手の反応を見ながら発表できるようにポイントを示す。 ・地球環境や地域と自分とのかかわりについて考え、発信していくように示唆する。	・聞き手を意識し、調査の結果や自分の考えをはっきりと伝えることができる。 ・自分の調査と比較しながら友達の発表を聞くことができる。 ・子吉川の自然や歴史、人とかかわりについて考えることができる。	・話すことが苦手な子どもには、短い文ではっきり話すようにアドバイスする。 ・新しい情報に気をつけて聞くことができるようなヒントを与える。	・筋道を立てて相手に伝わるように話す ・中心に気をつけて聞き、自分の考えをもつ（国語）

(1) ねらい

- 自分の課題を追究するため主体的に活動しようとする。
- 課題追究に適した方法を選びながら調べ活動ができる。

○課題追究に適した方法を選びながら調べ活動ができる。

過程	形態	時間	学習活動と予想される児童の反応	○学習への支援	☆評価					
つかむ・みとおす	コース全	5	1. 本時の活動について確認する。 子吉川のひみつを調査しよう。	○ 学習計画をもとに、本時の活動を確認することで、めあてをしっかりとって調べ活動ができるようにする。						
		77	2. 自分の課題を追究する。 【生き物コース】(T3:4竹) ・ 上, 中, 下流にすむ魚の種類が違うのはなぜだろうか。図鑑で魚の生態を調べてみよう。 ・ 子吉川には絶滅が心配されている生き物がいるけど、どうして数が減っていったのだろう。 【水質コース】(T2:4松・PR) ・ パックテストを使って、水のきれいさをデータで表してみよう。パックテストの正しいやり方をGTに教わろう。 ・ 昔と今で水のきれいさが違うのはどんな原因があるのだろうか。 【わき水コース】(T1:4:KR) ・ 子吉川の近くにわき水が何カ所あるか調べてみよう。 【川とくらしコース】(T1:4:KR) ・ 私たちが使っている水道水は子吉川のどこからとっているのだろうか。他の市町村の川からとった水道水に比べてどうだろうか。 【歴史コース】(T1:4:4梅) ・ 子吉川に関係のある昔話や民話をさがし、「子吉川歴史マップ」づくりをしよう。 【名前の由来コース】(T1:4:4梅) ・ 子吉川という名前のもとなった地名や伝承について調べ、物語の題材を集めよう。 【ポートコース】(T1:4:KR) ・ どうして子吉川にポートコースができたのか、県の他の川にはないのだろうか。 【ごみ問題コース】(T1:4:KR) ・ 子吉川にはどれくらいのごみが捨てられているのだろうか。どんな種類のごみがどのような理由で捨てられているのだろうか。	○ 前時までの活動状況を把握しておき、必要に応じて追究方法の見直しを促したり、新たな視点に気付かせたりして、より充実した活動ができるようにアドバイスカードを用意しておく。	○ 子どもの疑問に答えてもらうために、子吉川事務所の方(GT)を招いてお話をいただく。その際、事前に指導のポイントを伝えておく。	○ 子どもの質問が的外れにならないようにインタビュー用紙を用意し、予め教師がチェックし、質問内容を焦点化しておく。	○ 水のきれいさを数値化する方法を教えていただくために、子吉川事務所の方(GT)を招いて実演をお願いする。正確にデータを収集できるように実験コーナーを整えておく。	○ 調べ方をTV会議を使ってセンターの先生に聞いてみるができるようにプレールームにシステムを準備する。	○ 川とくらしについては、社会科の学習との関連を図り、具体的に調査できるように掲示物などの資料を用意しておく。	○ 地域に密着した調査ができるように副読本「わたしたちの子吉川」や冊子「子吉川」, VTR「とうほく川紀行・子吉川」, 子吉川市民会議のボランティアを活用する。また、子どもに必要な情報を予め直ぐに引き出せるようにしておく。
しらべる	個・グループ		3. 本時の振り返りをし、次時の活動の見通しをもつ。	○ 本時の活動のめあてを振り返り、その成果をもとに次時の活動への見通しをもつことができるようにする。						
ふりかえる	コース全	8								